

[あいさつ]

公益社団法人 倉敷観光コンベンションビューロー 専務理事

丹下 恒夫

本日は倉敷においで頂きましてありがとうございます。岡山は「晴れの国」と言われていますが、あいにくと今日は雨になりました。ここの「晴れ」にはもう1つの意味がありまして、「特別な日」を言うこともあります。皆様にとっても、我々にとっても今日は特別な日であるかなと思っております。

私も昨日、特別講演、基調講演、分科会に出席させて頂きました。いろんな事をお聞きしましたが、なるほどと思う事もありましたし、果たしてこれで倉敷ではコンベンションが出来るのかといろいろ考える時間でもありました。そんな事で我々も進めていくわけですが、あいにく我々の所には MICE 施設がありません。そんな事で地元の公共施設、ホテル、旅館を利用するわけですが、これらにしても皆様の所と比べると充実しているとは言えず、これから倉敷らしいコンベンションを誘致していく事を考えております。そんな中、今年4月から6月にかけて JR 6 社がデスティネーションキャンペーンを展開しております。また、5月14、15日には G7 の倉敷教育大臣会合が開かれます。こんな事で今、市を挙げておもてなしの気運を高めようと日々努力をしております。

今日は皆さん市内美観地区の散策や「むらすゞめ」の手焼き体験をして頂きました。また、あいにくと大原美術館では主な作品が東京へ行っており残念でしたが、その代わり日頃はあまり見られない絵画を見ることができたのではないかと考えております。それからここにスクリーンを用意してありますが、今倉敷の物語館では「春宵あかり 2016」と称して大型のプロジェクト

ションマッピングで昔話を楽しんで頂いております。あいにくの雨ですので、今日は室内で見させて頂きます。物語はここから少し南へ行った児島という所に伝わる「金浜伝説」でして、正直者の漁師の話です。しばらくの間お楽しみください。

今後とも我々がコンベンションを進めていく上で、皆様のご支援、ご協力をお願いすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私の所は一気に平均年齢が下がって、今年も新卒が入ってくるのですが、MICE やコンベンションを何のためにやるのかといった事を教育していくというのは、自分のところだけではなくて、こういう連携の中で人が育つような仕組みをどう準備するのかが大事です。我々の仕事というのは本当に手塩にかけて、育てないとなかなか育たないですね。ですから自分の人生のマイゴールはどこなんだという事を明確にしてあげる作業というのを我々は今ずうっとやってきている。地方のビューローが残れるかとか、地域の PCO が残れるかというのは、残らなければいけないのはどうしてかという、ビューローは誘致の職員ではなく、私たちはまちづくりの職員だと思っております。

やはり産業を育成していく担い手としての強力なパワーを持っていなければいけないので、相当先が見えない社会の中で、ここは皆さん方の妄想力を持つべきだと思います。妄想出来ない人間はこれから先、夢は語れないしビジョンも作れない。その妄想を構想していく力が必要です。